第８課　荒海から天の雲へ

【暗唱聖句】

「天下の全王国の王権、権威、支配の力はいと高き方の聖なる民に与えられ、その国はとこしえに続き、支配者はすべて、彼らに仕え、彼らに従う。」 ダニエル書7章 27節

【日曜日・4頭の獣】

「バビロンの王ベルシャツァルの治世元年のことである。ダニエルは、眠っているとき頭に幻が浮かび、一つの夢を見た。彼はその夢を記録することにし、次のように書き起こした」ダニエル7:1

ダニエル書7章は再びバビロン時代にダニエルが見た夢（幻）の話に戻ります。その夢の中には海から四頭の大きな獣が現れます。

獅子…バビロン。鷹のような羽が生えている獅子は、バビロンの王宮の壁や芸術品にも描かれていたバビロンを象徴するものでした。世界中を飛び回って食い尽くすように占領していきましたが、やがて人間の心が与えられるのは、次に起こる国によって衰退することを現わしています。

熊…メド・ペルシャ。横ざまに寝ていることで、連合国ですが一方が一方より強い、つまりメディアよりもペルシャが力あることを現わし、三本の肋骨を口にくわえていたのは、リディア・バビロン・エジプトを占領したことを現わしています。

豹…ギリシャ。4つの羽をもった豹は世界をあっという間に支配していったアレクサンダーの俊敏さを現わしています。4つの頭は、アレクサンダーが32歳で亡くなった後、4つの将軍が分割したことを現わします。

ものすごく恐ろしい獣…異教ローマ。「鉄の歯」が2章の鉄の足と類似しています。圧倒的な力を持っていますが、他の獣と異なる姿をしていることから、単なる国家ではなく宗教的力が加わっていくことを示唆しています。

【月曜日・小さな角】

「その角を眺めていると、もう一本の小さな角が生えてきて、先の角のうち三本はそのために引き抜かれてしまった。この小さな角には人間のように目があり、また、口もあって尊大なことを語っていた」ダニエル7:8

第四の獣には10本の角が生えていました。これはゲルマン民族の侵入によってローマが滅び、ゲルマン部族国家が別れていくことを指していると思われますが、小さな角によって3本の角が抜け落ちます。この小さな角とは、ローマが滅んでも力を失うことなく逆にその力がいっそう増し加わっていくローマ法王権力のことであり、抜け落ちる3本の角とは、他国の王たちが次々にカトリックの信仰を受け入れていく中で、キリストの神性を否定するアリウス派を主張したヘルル、ヴァンダル、東ゴートを指しています。これらの国を、軍隊を派遣して弾圧していったのでした。ダニエルはこの小さな角が聖者らと戦うのを見ますが、彼はいと高き方に敵対し、時と法を変えようとたくらみ、聖者たちは彼の手に渡されます。天使は小さな角の活動期間は「一時期、二時期、半時期」と言います。「時」は「年」を現わすので3年半、これを日数にすると1260日、預言では1日は1年と解釈するので、1260年間が小さな角の活動期間であることはわかります。つまり、聖者たちを悩まし、時と法を変えようとするということです。

「…まず、神に対する反逆が起こり、不法の者、つまり、滅びの子が出現しなければならないからです。この者は、すべて神と呼ばれたり拝まれたりするものに反抗して、傲慢にふるまい、ついには、神殿に座り込み、自分こそは神であると宣言するのです」第二テサロニケ2:3，4

小さな角と世の終わりの前に出現する不法の者は、共に神様に逆らい、傲慢、自分が神のごとくにふるまいます。同じ性質を持っていることがわかります。世の終わりにはかつての教会の暗黒時代が再び起こるということです。

【火曜日・裁判が開かれる】

「なお見ていると、王座が据えられ「日の老いたる者」がそこに座した。その衣は雪のように白く、その白髪は清らかな羊の毛のようであった」ダニエル7:9

4頭の獣と小さな角の幻を見た後、ダニエルは天の裁判の光景を見ます。「日の老いたる者」が王座に座し、幾千幾万人が前で、巻物が繰り広げられていきます。この裁判は、1260年という小さな角の活動期間の後、神の王国が樹立される前になされます。ダニエル書7書の中に3回もこの裁判の場面が繰り返されることから、非常に重要な出来事であることがわかります。特に注目しなければならないのは、次の御言葉です。

「見ていると、この角は聖者らと闘って勝ったが、 やがて、「日の老いたる者」が進み出て裁きを行い、いと高き者の聖者らが勝ち、時が来て王権を受けたのである」ダニエル7：21、22

　この裁きにおいて、神様を信じる者たちは悪魔の訴えに対して勝利が確定します。再臨前審判というのは、神様を信じる者たちにとっては、救いが確定する日なのです。

【水曜日・人の子の到来】

「夜の幻をなお見ていると、見よ、「人の子」のような者が天の雲に乗り、「日の老いたる者」の前に来て、そのもとに進み…」ダニエル7：13

人の子のような者が天の雲に乗り、「日の老いたる者」の前に進みます。人の子は、イエス様が好んで用いられた自分自身に対する言葉です。この人の子のような者は、「権威、威光、王権を受け、諸国、諸族、諸言語の民は皆、彼に仕え、彼の支配はとこしえに続き、その統治は滅びることがない」（ダニエル7:14）とあることからも、イエス・キリストを現わしていることがわかります。キリストは裁きの時、私たちの弁護者としてやってきてくださるのです。また、「天の雲に乗り」という表現は再臨の光景を連想しますが、地上に降りて来られるのではなく、日の老いたる者、すなわち父なる神の御座の前に水平移動します。まるでこの後、天の聖所の清めを行うために、香の煙に包まれながら至聖所に入って行かれるかのようです。

【木曜日・いと高き者の聖徒ら】

7章の中で、聖徒らについて書かれてあることを抜き出すと、

「しかし、いと高き者の聖者らが王権を受け、王国をとこしえに治めるであろう」（7:18）

「見ていると、この角は聖者らと闘って勝ったが、やがて、「日の老いたる者」が進み出て裁きを行い、いと高き者の聖者らが勝ち、時が来て王権を受けたのである」（7:21，22）

「彼はいと高き方に敵対して語り、いと高き方の聖者らを悩ます」（7:25）

「天下の全王国の王権、権威、支配の力はいと高き方の聖なる民に与えられ、その国はとこしえに続き、支配者はすべて、彼らに仕え、彼らに従う」（7:27）

聖徒たちは、小さな角つまりローマ法王によって、悩まされたり、打ち負かされたりしますが、最終的には、勝利し、王権を受け、新たな世界を支配することになります。イエス・キリストの勝利や権威、支配は、キリストを信じて救われる者たちにも及び、それを引き継ぐことになるのです。考えてみれば、最初の世界も神様が創造された後、人間に支配するようにと言われました。罪の結果、誤った支配となってしまいましたが、天において、また新天新地において、もう一度わたしたちは本来あるべき祝福を受け継ぐのです。